

国立大学図書館協会  
地区協会助成事業成果共有会

— 東海北陸地区 —

2022年12月2日

名古屋大学附属図書館情報管理課 小嶋悦子

# 東海北陸地区の構成

北陸地区・・・3県4機関

+

東海地区・・・4県8機関

計 7 県 12 機関

金沢 北陸先端



富山



福井



岐阜



岐阜

浜松医科 静岡



三重

三重



名古屋 愛知教育

名古屋工業 豊橋技術科学



# 東海北陸地区の取り組みの特徴

◆オープンである  
参加者も地区職員に限らず広く募集

◆協働している  
複数機関での共催企画が多い！  
連携して取り組んでいる

# これまでに実施した事業

開催形式	実施回数	おもなテーマ
シンポジウム・フォーラム	3	パスファインダー、ラーニングコモンズ、電子書籍
講習会・講座・ワークショップ	7	広報、本の修理、共読、選書
研修会	12	学修支援、防災、電子書籍、目録、多様性、著作権、研究データ管理

単年度、単発の企画が主流

テーマは管理系 9 件 サービス系 1 3 件

# これまでに実施した事業

東海地区 平成 19 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業

## デジタルレファレンス フォーラム

現代の大学図書館・公共図書館のレファレンス・サービスは、レファレンス事例データベース、パスファインダー(主題別情報案内ツール)、インターネット利用共同レファレンスシステム、電子メールによる質問対応など、多様なデジタルレファレンス・サービスが広がっています。これらの新しいサービスの現状をテーマに、東海地区の大学図書館・公共図書館の館種を超えたレファレンス担当者が集まり、レファレンス・サービスについて考え、同時に連携・協力の人的ネットワーク構築を目指します。

**日時：2008年3月7日(金) 10:00~16:00**  
**場所：名古屋大学野依記念学術交流館**  
**主催：東海地区国立大学図書館協会**

プログラム

- 講演会 10:00~12:00  
(1) 市川美智子(愛知医科大学医学情報センター)  
「Web/パスファインダーを活用した健康支援と図書館連携」  
(2) 鈴木 智之(国立国会図書館関西館)  
「レファレンス事例集データベースの構築と活用」
- レファレンス担当者交流会(懇談会) 12:10~13:20
- ワークショップ(1)・(2) 13:45~16:00  
(1) パスファインダーの事例紹介・活用について  
事例報告：栗野 容子(名古屋大学附属図書館)  
柴田佳寿江(三重大学附属図書館)  
土屋 雅彦(静岡県立図書館)  
寺井 仁(名古屋大学附属図書館研究開発室)  
助言：市川美智子  
(2) メールレファレンスの現状と課題  
事例報告：渡辺 基尚(岐阜県図書館)  
高橋 弘子(広島大学図書館)  
松山 龍彦(国際基督教大学図書館)  
助言：鈴木 智之
- 事例パネル展示及びデモンストレーション

講演会のみ一般の方もご参加いただけます。下記にお申込み下さい。



参加申込み・問合せは、名古屋大学附属図書館情報サービス課参考調査掛まで  
〒464-8601 名古屋市中村区不老町 63-2(790)  
Tel. 052-789-3680 Fax. 052-789-3694 e-Mail: sanko@nui.nagoya-u.ac.jp URL: http://www.nui.nagoya-u.ac.jp

平成19年度

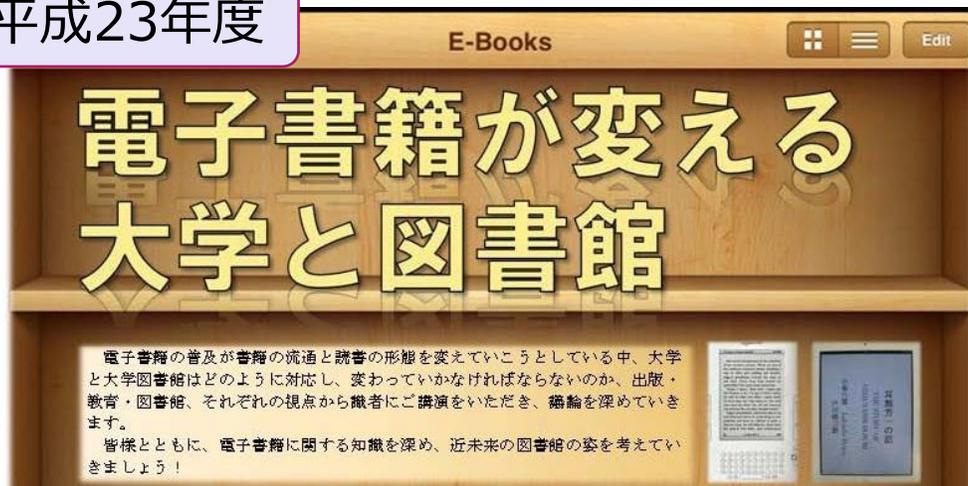
構成

- ・ 講演会
- ・ 担当者交流会
- ・ ワークショップ
- ・ パネル展示及びデモンストレーション

参加者数 100名

# これまでに実施した事業

平成23年度



場所 富山大学五福キャンパス 黒田講堂会議室  
日時 平成23年10月3日(月) 13:00~17:00

- 【プログラム】
- 開会挨拶 (13:00~13:15)
  - 講演
    - 1、電子書籍の現在と未来  
講師：植村ノブ
    - 2、電子書籍端末とデジタルライブラリー  
講師：高井 直
    - 3、電子書籍時代における大学図書館の役割  
講師：岡本 浩
  - 質疑応答・ディスカッション
  - 閉会挨拶 (16:50~17:00)

平成30年度

平成30年度国立大学図書館協会 東海北陸地区助成事業

## シンポジウム

### 大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう

日時: 平成30年9月20日(木)14:00~16:30  
場所: 金沢大学附属図書館  
自然科学系図書館AVホール(角間南キャンパス)

平成26年度

東海北陸地区国立大学図書館協会研修会  
「学びの力を獲得する『共読』を体験する」 実施要項

- 趣旨  
「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」等でラーニングコモンズを活用してのアクティブ・ラーニングへの展開が図書館に求められている。このことから、アクティブ・ラーニングにつながる手立てとして、読書と学習支援のあたらしいカタチとして知られる「共読」に関するワークショップを開催し、図書館員の立場からの学修支援の発展について考察する。
- 日時 第1回ワークショップ 「三冊で読む」 8月22日(金) 13:00~17:00  
第2回ワークショップ 「棚を読む」 9月26日(金) 13:00~17:00
- 会場 福井大学総合図書館3F研修室
- 内容  
第1回ワークショップ 8月22日(金) 13:00~17:00  
13:00~13:30 受付  
13:30~13:40 開会あいさつ (福井大学附属図書館長 寺尾健夫)  
13:40~16:40 ワークショップ「三冊で読む」  
講師 小川玲子氏 (イシス編集学校 師範代 )  
目次読書法をベースに、出会った本三冊で共読を体験する  
16:40~ 館内見学 (希望者のみ)  
第2回ワークショップ 9月26日(金) 13:00~17:00  
13:00~13:30 受付  
13:30~13:40 開会あいさつ (福井大学附属図書館長 寺尾健夫)  
13:40~16:40 ワークショップ「棚を読む」  
講師 小川玲子氏 (イシス編集学校 師範代 )  
相互に語りあうことによる棚づくりで共読の可能性を探る  
16:40~ 館内見学 (希望者のみ)

# これまでに実施した事業



# これまでに実施した事業

令和元年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業

## アイデアを共有しよう!

～学生用図書の選書と評価～

2019.9.27(Fri)

13:30～16:30

会場：富山大学中央図書館2階プレゼンテーションゾーン

図書館予算の削減や電子ジャーナルの価格上昇などにより、多くの大学図書館では学生を対象とした図書購入費が年々減っています。この研修会は、基調講演と事例報告により学生用図書の選書や評価の知見を広めるとともに、参加者によるワークショップからの教育支援のために効果的な選書・蔵書構築についてアイデアを共有することを目的としています。



### ワークショップ

- ① 目的  
学生用図書の選書と評価のアイデアを共有する
- ② 目標  
講演、事例報告でのアイデアも踏まえ、自分の職場での課題を持ち寄ってグループで共有し課題の解決策を考えることで、新しい視点で業務に取り組めるようになることを目標とする。
- ③ 進め方とスケジュール

No.	事項	時間(分)	備考
	席の移動、進め方の説明	10	
1	自己紹介(A4用紙を二つ折りにし、各自記入、見せながら)名札で名前、所属(担当)。A4用紙に「最近驚いたこと」、「仕事上の課題、実現したいこと」(事前課題)	10	自己紹介 アイスペーク 1人約1分
2	本日の講演、事例報告なども参考に、1の自分で解決したい課題(実現したいアイデア)を列挙しグループで共有する。 司会:次の方、他には :1の用紙をつきあわせて共有、追加もあり		
3	2で出てきた中から、これを話し合いたい(解決したい)と思うことをグループで1つに絞る 司会:どれを解決又は、実現したいですか?(意見を聞く)、1つに決める 記録:WBに決めた課題を記録(WBの裏面使用可)		「課題」「実現したいこと」の設定を要注意 WB:ホワイトボード
4	3の課題について①初めに課題の原因、実現したいことを阻んでいる原因を参加者で考える。原因が出尽くしたら②次に解決策を提案する。 司会:まず、考えられる原因をできるだけ沢山出してもらおう。次に解決策を沢山出してもらおう。可能ならまとめるアイデアが出にくい場合、付箋の利用も	25	原因をできるだけ幅広く考えることが大切
5	WBに記録されたものを全員で装飾(デコる)し、発表の準備をする		全員で
6	最後に発表する(みんなで補足、1Gは2分で)他グループは質問、又は感想。最後に拍手	15	全員で

2の例(アンケート設問20、21の回答も参考に)  
学生選書の参加者が少ない、教員からの選書が少ない・出てこない、学生用図書予算が少ない など

- ④ 役割分担(グループ分け、役割分担は当日お知らせします)  
進行(司会) 参加者全員が発言できるように進行する  
記録(板書) ホワイトボードに記録  
タイムキーパー 時間配分通りに進行できるように司会者を補助する  
発表 ホワイトボードを使い、出された意見等も参考に発表する  
みんなで盛り上げる
- ⑤ ルール  
積極的に発言しよう、共感しよう(話している人を見てうなずく)、否定はNG(人の意見にのっかる、どうしたらできるか考えよう)、この場を楽しもう、秘密保持

# これまでに実施した事業

BCP（ビジネスコンティニュ  
ティプラン）に関する研修会  
（H28年度）

東海北陸地区大学間学術資  
源活用事業WG（H26-H30  
年度）の活動とリンクし、富山・  
岐阜・名古屋工業・名古屋で  
共催

研修会「震災と図書館活動」  
（令和元年度）

日本図書館協会の第105回  
全国図書館大会三重大会との  
共催企画

# これまでに実施した事業

シンポジウム「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」（H30年度）

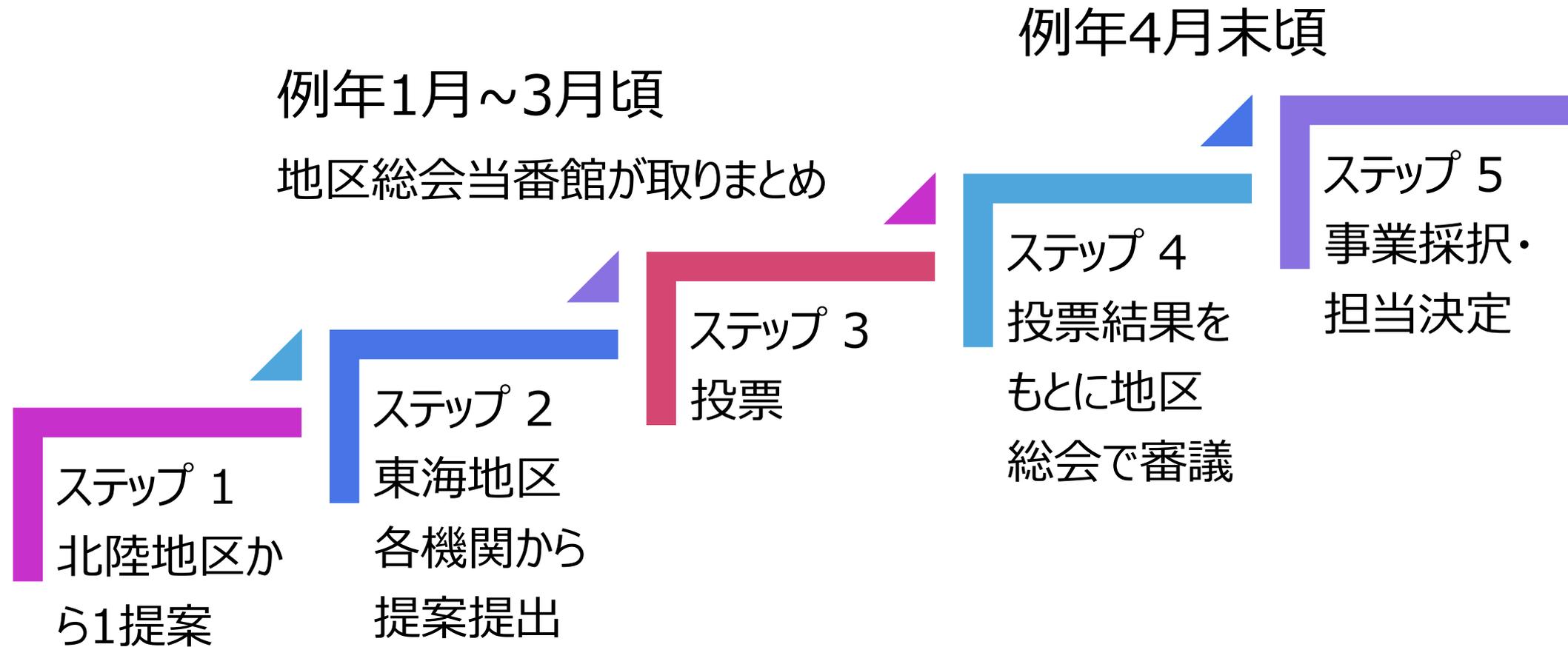
研修会「アイデアを共有しよう！～学生用図書を選書と評価～」(R1年度)

研修会「魅力ある講習会企画のノウハウを身につけよう～ピンとこんな～と言わせない！」(R2年度)

研修会「「多様性」時代の大学図書館 ～知ることから始めよう～」(R3年度)

毎年度1件は北陸地区国立大学連合図書館系専門委員会との共催企画

# 事業の選定方法



# 事業の運営

## 担当館決定

地区総会で事業選定と同時に運営についても審議  
単独館での開催や複数館での共催とする

提案を出した機関だけに負担がかからないように

## 計画

計画書、予算書の作成  
講師委嘱、謝金支払等は地区事務局が担当

多くの企画を複数大学で共催

## 実施・報告

開催通知、参加者の取りまとめ、事業実施、結果報告

ワーキンググループを作って手分けして実施  
⇒ 若手職員の育成・交流の場にも

# ポストコロナの変化

## 研修会「イマドキ 大学図書館のリスクマネジメント～地震・カミナリ・ウィズコロナ～」の開催について

2020.12.09

東海北陸地区国立大学図書館協会では、本年度における地区協会助成事業として以下のとおり研修会を開催いたします。つきましては、貴館職員の皆様へご周知いただきますとともに、ご参加につきましてご配慮いただきたくお願い申し上げます。

【テーマ】 イマドキ 大学図書館のリスクマネジメント～地震・カミナリ・ウィズコロナ～

【日時】 令和3年2月12日（金） 13：30～16：30

【開催形式】 オンライン講演（Zoomにて開催）

※ZoomのアクセスURL等は2月1日（月）以降にメールにてお知らせします。

【主催】 東海北陸地区国立大学図書館協会

<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/info/entry09-854.html>

### 【趣旨】

災害・情報セキュリティ・問題利用者等、図書館の安全を脅かすリスクは様々あり、各図書館では日頃より危機管理に気を配り、体制を整備しているところである。

本研修会では、前半で、大学図書館におけるリスクやその対処法全般について、専門家から改めて知見を得ることとし、後半では、昨今新たなリスクとして各図書館が直面している感染症拡大リスクに焦点を当て、講演と事例報告により情報を共有することで、各館における課題把握や更なる体制整備につなげる。

### 【プログラム】

- 13：30 開会挨拶 岐阜大学図書館長 林 正子
- 13：35 講演「大学図書館における危機管理」  
関東学院大学 社会学部現代社会学科 准教授 千 錫烈 氏
- 14：35 休憩（15分）
- 14：50 講演「リスクマネジメントから見た日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」」  
公益社団法人日本図書館協会常務理事・慶應義塾大学名誉教授 田村 俊作 氏
- 15：20 小休憩（5分）
- 15：25 事例発表「ウィズコロナと大学図書館サービス－東京学芸大学附属図書館 緊急事態宣言からの309日－」  
東京学芸大学附属図書館学術情報課利用者サービス係長 瀬川 結美 氏
- 15：55 質疑・意見交換（30分）
- 16：25 閉会挨拶
- 16：30 閉会

### 【開催報告】

以上の研修会につきまして、以下のとおり内容などを報告いたします。

参加者：38名（東海北陸地区以外も含めた22機関より）



# ポストコロナの変化

令和4年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業研修会

**知ろう学ぼう考えよう**  
**～大学図書館の研究データ管理・公開支援～**

令和4年10月25日（火） 講義・事例報告：13:30-15:30

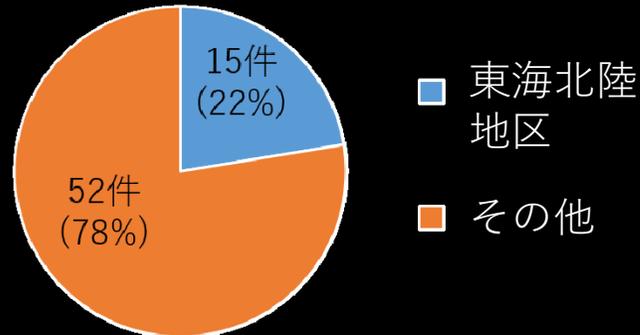
意見交換会：15:30-16:30

開始までお待ちください

本スライドにはBGMが流れています。音声聞こえるかご確認ください。



参加者アンケートより 所属機関



Gather <https://www.gather.town/>

# ポストコロナの変化

## 予算面の変化

- オンライン開催で経費が抑えられる傾向  
⇒ 複数の事業が実施できる  
⇒ 費用がゼロ円で助成事業に当てはまらなかったことも

## 運営面の変化

- 物理的な場所や移動を伴わないオンライン企画は対面企画より人手がいない  
⇒ 小規模校でも比較的開催しやすい

## 社会、人の変化

- 他地区の研修会やさまざまなオンライン企画に参加できる機会増、情報量増
- 地区の縛りは必要か？  
⇒ とくに検討段階では地区で協力し合う体制があると良い

# 今後期待すること

(参加する側)

- オンライン＋現地開催
- 対象を広げてオープンに

(運営側)

- 共催でスタッフ同士の交流が生まれる
- 運営に携わる職員の経験値アップ⇒育成につながる

# 参考資料

- 国立大学図書館協会ウェブサイト

ホーム(会員) > 地区協会 > 東海北陸地区協会

<https://www.janul.jp/ja/members/regional/tokai>

# これまでの実施事業一覧

年度-回	事業名	主担当大学
H19	東海地区デジタルレファレンス・フォーラム	名古屋大学
H20	『ラーニング・コモンズ』フォーラム：図書館における学習教育支援の新展開	名古屋大学
H22	デザイン・コーディネート講習会	名古屋工業大学、名古屋大学、三重大学
H23	研修会「電子書籍の未来と大学図書館」 ～電子書籍が変える大学と図書館～	富山大学、岐阜大学、名古屋大学
H24	研修会「学習支援の始め方 ～大学で「学ぶ力」の育成を支援する～」	金沢大学、静岡大学、名古屋大学
H26-1	ワークショップ「学びの力を獲得する『共読』を体験する」	福井大学、名古屋大学
H26-2	図書修理実践講座「本を優しく修理しよう」	名古屋大学
H27	図書修理実践講座「本を優しく修理しよう」中級編	名古屋大学
H28-1	B C P（ビジネスコンティニュイティプラン）に関する研修会	富山大学、岐阜大学、名古屋工業大学、名古屋大学
H28-2	R D Aに関する研修会	名古屋大学

年度-回	事業名	主担当大学
H28-3	研修会「ラーニングコモンズにおける図書館の資源を活用した学習支援」	静岡大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学
H29-1	講演会「『平成28年熊本地震』熊本大学附属図書館における復旧と今後の対策」	金沢大学
H29-2	研修会「図書館における問題行動への対処法」	名古屋大学
H30-1	シンポジウム「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」	金沢大学
H30-2	プロの視点を知ろう！ 思い伝わる図書館広報	静岡大学
R1-1	研修会「アイデアを共有しよう！ ～学生用図書の見直しと評価～」	富山大学
R1-2	研修会「震災と図書館活動」	三重大学
R2-1	研修会「魅力ある講習会企画のノウハウを身につけよう～ピンとこな～と言わせない！」	福井大学
R2-2	研修会「イマドキ大学図書館のリスクマネジメント ～地震・カミナリ・ウィズコロナ～」	岐阜大学
R3-1	研修会「「多様性」時代の大学図書館 ～知ることから始めよう～」	北陸先端科学技術大学院大学
R3-2	研修会「これからどうする、著作権法31条改正」(助成対象外)	金沢大学、名古屋工業大学、名古屋大学、三重大学
R4-1	研修会「知ろう学ぼう考えよう～大学図書館の研究データ管理・公開支援～」	名古屋大学

ご清聴ありがとうございました。